

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	美術
科目基礎情報					
科目番号	0012		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報工学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	プリント配布・作品見本／教材は鉛筆デッサン用具, アートガラス等				
担当教員	宇野 陽一				
到達目標					
1. 鉛筆(H・HB・2B)をカッターナイフで削る事ができる。風景写生でデッサンスケールを使い、遠近法の知識と鉛筆の線表現で作画ができる。 2. ケント紙による立方体作りで、のり、テープなど使用しない設計から平面と立体の関係を理解して立方体が作れる。立方体と手をデッサン(観察)することで明るさや色の違いが描写できる。 3. 色彩の基礎を学び、色を科学的に理解する。アートガラスの白黒作品と色彩配色, 創作の面白さを体験して作品化する。 4. コンピュータを描画道具として風景写生に着色することで絵具ではできない色彩表現と動画が作れる。表現の幅を広げ、美術におけるデジタル表現での可能性を体験する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	描写表現 対象物の形を正確、精密に描く事ができる。明暗や陰影、色彩、質感の表現ができる。		対象物を観察して形や陰影など描く事ができる。意欲的な作品		対象物の形が描けない。物を観察して表現しようとする意欲が感じられない表現
評価項目2	描画表現 遠近法や画面分割などを使い画面を構成できる。テーマに沿った物を選び配置できる。		画面全体を使いテーマに沿った構成ができています。		課題やテーマに関係のない物や画面全体を考えない構成
評価項目3	立体表現 立体を平面図から想像できる。立体を展開図や三面図に表現できる。紙で綺麗に幾何立体を作成できる。		平面図、展開図から立体を把握して作ることができる。		平面図、展開図から立体を作れない。
評価項目4	色彩表現 色彩の基礎である光・色の三原色を正しく表現できる。色の三属性を正確に言える。混色を正確にできる。テーマ通り配色できる。		色彩の基礎の三原色、三属性については正しく理解できる。ある程度応用できる。		色彩の基礎の三原色、三属性について理解できない。
評価項目5	デジタル表現 PCの画像ソフトの使用を課題に沿ってできる。テーマに合った表現方法でソフトが使える。PCならではの個性ある表現ができる。		PCの画像ソフトの使用を課題に沿ってできる。テーマ通り作品が作れる。		PCの画像ソフトの使用ができず課題を提出できない。
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程 (本科1～5年) 学習教育目標 (1)					
教育方法等					
概要	高校生レベルの美術の知識と創作表現を知る。鉛筆でのスケッチと紙による立体表現、アートガラス教材を使い表現方法を模索する。コンピュータによる画像処理と作画作業や動画(アニメ)制作より美術への関心と創作者(ものづくり)としての教養を身につける。				
授業の進め方・方法	実習を主として手作業による表現とコンピュータを使いデジタルによる表現で共に多様な美術表現を学ぶ。授業は講義も含め学生の個性と創作意欲を高める。				
注意点	関連科目 基礎製図, 情報リテラシー 学習指針 美術への興味と美意識の向上に努める。年齢相応の丁寧な作業と美的調和を目指す。学生自身の自主的で柔軟な表現での作品を作る。 自己学習 授業内での作品完成を目指す。時間不足や欠席のため自宅学習での完成を求める。 事前学習・・・シラバスを参考にして、関連する美術作品への関心を深めておくこと。 事後展開学習・・・授業で扱った美術表現、その作成方法などをよく復習すること。日ごろから美術作品に触れるよう努めること。				
学修単位の履修上の注意					
授業での指示に従い、作品のアイディア, あるいは作業工程などを各自でよく考えること。その結果を課題達成の評価として、評価する。					
授業の属性・履修上の区分					
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応	
		☐ 実務経験のある教員による授業			
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	授業内容の説明・美術と画材について	美術とは何かの講義と鑑賞、自己紹介。授業の概要説明を行う。	
		2週	描写表現(鉛筆とカッターを使用)	鉛筆が削れるようになる。描画のための鉛筆の持ち方ができる。絵画に向かう姿勢と感情表現を知る。	
		3週	描画表現(立方体の描写)	画用紙に最大限入る大きさの正立方体の展開図を描き、立体工作する。	
		4週	描画表現(立方体の描写)	作った立方体を対象物として机の上に置き、形を正確にとらえ陰影や質感を鉛筆を使用して描写する。	

		5週	描画表現(校内風景画)	空間表現法－東洋と西洋の遠近法の違いを知る。線遠近の透視図法の表現を試み、風景を描ける。
		6週	描画表現(校内風景画)	遠近法を用いて風景作品の画面構成を意識して描写する。また、陰影を意識した着彩を施し完成させる。
		7週	アートガラス1(はがきサイズで額付き)	多種多様な表現の作品見本の鑑賞や色彩の講義からアートガラスの下絵を制作できる。
		8週	アートガラス2(下絵をトレース)	下絵を版画と同様に左右を反転してガラスの裏面に転写や描画ができる。
	4thQ	9週	アートガラス3(裏面から黒の塗装をけずり描画)	アートガラスをニードルや彫刻刃、カッターナイフなどを使い下絵を白黒作品として完成できる。
		10週	アートガラス4(配色着色作業)	白黒アートガラスの完成後に色紙、絵具、色鉛筆などで背面から着色して額装完成できる。鑑賞して個々の作品を批評できる。
		11週	デジタル表現1(ソフト解説と使用方法・動画表現)	コンピュータ動画編集ソフトの説明や解説でソフトの使用方法が理解できる。
		12週	デジタル表現2(動画表現)	3～4分の動画制作を目標に構想設計し、構想をもとに撮影する。
		13週	デジタル表現3(動画表現)	撮影の際に構図やアングル、タイミングを図り見やすく表現できるよう考えて制作できる。
		14週	デジタル表現4(編集)	撮影したものをつなぎ合わせて魅力ある作品にしあげる。
		15週	作品提出と作品講評	年間の作品について講評を行い作者は自身の作品について思いを発言できる。
		16週	鑑賞とまとめ	美術作品、学生作品などの鑑賞ができる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		課題達成の評価	授業への取り組みと小テスト	合計	
総合評価割合		80	20	100	
基礎的能力		80	20	100	